

類では、一株から一本より多く花莖が出ることは、あり得べきことでは無い。尤もユキワリサウの如きは、一株から二三本位出る様に見える事もないではないが、あれは前年の一株が枝を打つて、今年は二株にも三株にもなつたものが、コチャ／＼と固まつて居る故で、土を洗ひ落せば別々の株になるものだ。」^{八九頁}トアツテ私ニモちよつと來いヲヤラレテ居ル、サウナルト嫌デモ應デモ一度ハ呼ビ出シニ應ゼネバナルマイガ何か一ツ反證デモ舉ゲン限リ無事ニ閻魔ノ廳カラ身柄ヲ下ゲテ貰フコトガ出來ン、コレハほんまニ困ツタモンダナト思案投ゲ首ノ末辛フジテ思ヒ出シタノガ此處(前頁)ニ掲グル圖ナノデアアル此レハ雷名天下ニ隠レナキ羽柴筑前ノ守久吉様ト同名デ同ジク久吉武田ノ君トナン呼ビ參ラセル御方ノ堂々ト世界ニ發表セラレタ日本ノ櫻草ノ論文即チ Notes on the Japanese Primulas 殊ニこちと等ノヤウナ木ッ端武者ト違ッテ博士様ノお拵ヘニナツタ巨篇大作ノ中ニ在ルモノダカラゆめ間違ハナイモノデアアルト鬼ノ首デモ取ツタ氣持チ兎ニ角閻魔ノ前デ鬼ノ首ヲ取ツタトハ前代未聞ノ珍事コリヤ幸先キヨシト此ニ此シナ「極めて珍らしい」ノモ偶ニハアルト此反證ヲ掲ゲマシタガコレデ放免ニナレバ命拾ヒ、一時放免サレテモ更ニ控訴セラレントモ限ルマイガ、エーまゝヨ再ビンナ場合ニ出ツ食ハシタラ百年目其時キヤ又ソレ相當ノ知慧ガ出テ何ントカナラウカラサウ悲觀シタモンデチャーナイワネートかしこみかしこみ申さく

○ほていちくノ千筍ヲ造ル方法

熊本縣立人吉高等女學校 前 原 勘 次 郎

〔牧野云フ、肥後人吉町ニハ商店デ食料品トシテ千シタ筍ヲ賣ツテ居ルガ餘リ他地方ニハナイコトデ頗ル珍ラシイト思フ、人吉町カラ數里ノ奥ノ村々ニハほていちく即チこさんちクガ澤山野生シ自然其筍ガ多産スルノデ遂ニ此千筍ヲ製スル勢ヲ招致シタモノデアラウト思フ〕

第一法 コレハ賣出用ノ正式ノ仕方トモイフベキモノデ私ノ親友デアアル球磨郡岩野校長家城谷生君ニ頼ンデ調

査シテ貰ツタモノデアル、此ニ同君ノ原文ノ殆ンド其儘ヲ書クコトニスル (1) 皮ヲムク (2) 割ツテ日干ニスル (手デツカンデ見テジワジワスル位ノ程度マデ) (3) ソレヲ左圖ノヤウニカマニ入レテガラガラニナルマデ乾燥サセル



實ノ子ノ上ニ筍ヲ載セル

第二法 コレハ自家用ノ略式ノ仕方トモイフベキモノデ各所デ行ハレテキル私モ前ニ經驗シタコトガアル (1) 皮ヲムク (2) ソレヲザツトユデアゲル (3) 縦ニ割ツテ日干ニスル

(備考) ほていちくハ山野ニ野生シテキテ方言ヲこさんだけトイッテキル、生筍ヲ煮テ食フ小味ガアツテ他ノ筍ヨリウマイ、幹ハ釣竿其ノ他ノ雜用ニ供スル、數年前ニ何處ノモ花ガ咲イテ枯レソノ當座ハ殆ンド筍ヲ見ルコトガ出來ナカッタガ近年漸タト復活シ來リツ、アル、家城君ノ調査ニ依ルト目下干筍ノ製産量ハ漸ク舊時ノ六割ニ達シ茲四五年モセネバ舊時通りノ回復ハ出來マイトノコトデアル

○斷枝片葉 (其二十三)

牧野富太郎

●とさみづきトひらがみづき

普通ニ諸處ノ庭園ニ見ルとちみづき (*Corylopsis spicata* Sieb. et Zucc.) ハ實際唯四國ノ土佐ノミニ野生シテ居ルガラ土佐みづきの名ハ眞ニフサワシイモノデアアル即チ同國高知市ノ北邊山地並ニ同國高岡郡能津村錦山 (彼ノどうだんつゝじノ自生地) 邊ハ其產地デアル落葉灌木デ其葉ハ頗ルはし